

長万部の

教育 コーナー



今、学校では

楽しい水遊び

さかえ保育所

夏の暑い日、タライに水を入れて水遊びをしている風景です。保育所では一番小さいひよこ組の子どもたち。初めての水遊びに最初は少し怖がっていた子どもも、水の楽しさ・気持ちよさにすっかり夢中になりました。水に浮かべた魚のおもちやをバケツですくったり、じょうろでくんだ水を手や足にかけたりと、全身びしょ濡れになってもへっちゃらで遊んでいます。水遊びの後は汗ばんだ体も



お水、チャブチャブ気持ちいいよ！

さっぱりといい気持ち。北海道の短い夏を元氣いっぱい楽しめました。

未来のために

長万部高等学校

夏休みも終わり、今高校は前期期末考査の真最中です。夏休み直前には地域の方をおもてなしする長高祭、本校卒業生で国連学校の講師を務めている榎谷先生による国際理解授業、本校生徒会総務の生徒が参加させていただくこととなった町の未来づくり推進会議、小中高大の先生が一堂に会する長万部教育シンポジウム等、地域と連携した活動が続いています。さらに9月4日は町民ふれあいオリンピックがあり、今年も全校生徒が参加させていただきます。

就職希望の3年生は就職試験の解禁に向けて、将来を決

定する大切な時期となりました。夏休み中には三者面談、進学講習、公務員講習、企業訪問等が行われ、考査明けには模擬面接練習も実施され、いよいよ本番を迎えることとなります。高校卒業後の進路は誰かと一緒というわけにはいきません。精神的にも経済的にも自立した社会人となるべく真剣に取り組んでいるところです。また、土日も生徒たちは活動しています。部活動、各種模試、各種検定、アルバイト等です。資格は昨年度1年間でのべ87名の生徒が何らかの資格を取得しました。また、アルバイト

は現在35名（主に2・3年生）の生徒が働いており、社会に貢献しています。生徒たちはこれからも様々な経験をとおして、各自の自立の道を拓いていきます。保護者と地域の皆様の温かい応援とご支援をよろしくお願いいたします。



ビジネス文書検定講習～未来のためにスキルアップ！

こんな制度を ご存じですか？

◎就学援助制度とは…

お子さまが、小・中学校に通学するうえで、経済的な理由によりお困りの方に対し、学校給食費・学用品費・修学旅行費などが支給されます。

◎特別支援教育就学奨励費とは…

国の補助に基づき小・中学校の特別支援学級に在籍するお子さまがいる家庭に、奨励費の支給を実施するもので、学校給食費・学用品費・修学旅行費などが支給されます。学用品費の支給には領収書またはレシートの提出が必要となりますので保管しておいてください。（新1年生の準備学用品も対象となります。）

【お問い合わせ先】

学校教育課学校教育係
☎2-2748



写真で見る 学校の様子

長万部中学校



函館地区大会金賞受賞の吹奏楽部 7月30日



八雲中との合同チームで渡島地区優勝の女子バスケットボール部 7月2日



全道大会3位入賞し、全国大会出場の卓球部女子 7月31日



1・2年生で町内清掃 7月4日



夏休み学習会 8月16日



3年生 東京理科大学を見学 7月4日



校訓『和而不同』の心は、
脈々と受け継がれています

長万部高等学校校長

目谷 信 靖

皆さんも一度は、装飾された自転車で颯爽と走る少年を見かけたことがあるのではないだろうか。彼の名は大柳拓巳君。本校の1年生です。

彼の特集記事が、雑誌「Realty」に掲載されました。

この雑誌は、函館の大手書店が発行する函館ローカルのフリーマガジン（広告収入により無料で配布される冊子）です。

一般の方々から函館や道南圏のちよつと気になることを投稿してもらい、雑誌の編集者が調査・報告をするという内容になっています。

今回の投稿は、51歳の会社員の方からのものでした。

「先日、家族旅行の移動中に長万部町付近でデコトラ的な自転車に乗る少年を見ました。ちよつと気になるので調べてもらえないですかね。」と、いうことで雑誌の編集者が大柳君取材に來たというわけです。記事の抜粋を紹介します。

調査の結果、この少年は長万部町在住の高校1年生、大柳拓巳君と判明。彼は、『デコチャリ』と呼ばれる、ど派手な装飾を施した自転車で、日々町内を走っている。

彼は、自慢のポイントを「いま一番気に入っているのは泥よけですね。ラメが入っているのがカッコいいですよ。」万人に理解できるかどうかは、全く関係ない。一番大切なのはいつだって「自分がどう思っか」なのだ。

・何か魅了されてしまった人間の多くの場合、卓越した情報収集能力と行動力を発揮する。
・「やっぱバイク乗りになりたいですね。それで仕事用のトラックは支障が出るといけないので、飾るのは最低限にして、自分の小さなトラックを買って思い切り飾りたいです。」取材の最後に大柳君は将来の夢を語ってくれた。

・なんか叶う気がする。筆者がそう感じたのは、大柳君の真面目で、ひたむきで、自分に正直な性格が伝わったからだと思う。

本校の校訓は、「和而不同」として同ぜず。平成57年2月『論語』・子路編より引用され、「人と協調はするが安易に同調はしない。すなわち主体的に生きる。」という意味になります。当時、制定に携わった方々の「思い」が文書として残っています。

浴々（どうどう）たる没個性化、画一化の世情のさなかにおいて、「和して同ぜず」の校訓は、生徒たちがその将来を共に、あるいは自ら、創造的に切り開いて行くための色褪せることのない旗じりたり得ると信じて止まないものである。

まさに、大柳君の生き方は、その「思い」を脈々と受け継いでいることになりました。

私たち教師の役割は、子どもたちが、自分なりの夢や希望を持ち、その実現のために挑戦することができるように、背中を押し続けることにあるのだと思います。それぞれの夢や希望の実現に向けて頑張れ！長万部の子どもたち！！